



▲中山理事長(左)と椎根常務執行役員(右)

心身が健康な状態で 高いパフォーマンスにつなげてほしい

人事と健康保険組合の連携で健康維持のため有益な情報を提供してまいります

My Wellness | 対 | 談 |

SMBC日興証券グループ
健康保険組合理事長

中山 康



SMBC日興証券
常務執行役員

椎根 達也

現在、人事担当の役員である椎根さんと当健保組合の中山さん。3年違いで日興証券に入社した2人は、各地の支店長を歴任した後、従業員とその家族の健康をケアする組織の責任者に。

今回の対談では、自身の健康はもちろん、SMBC日興証券グループ社員とご家族に、健やかで豊かな人生を送ってほしいという願いに満ちたトークがあふれるひと時となりました。

——2人の出会いのエピソードで対談はスタート

中山 椎根さんは、私が旭川支店にいたとき、新人として福島支店に入られたんですね。

椎根 中山さんとは、私が1990年(平成2年)に入社しまして、そこからの付き合いです。たまたま組合の集まりがあって、福島支店のインストラクターが中山さんと同期だったこともあり、そこで初めてお会いしました。一緒に仕事をしたことこそありませんが、その後、リテール事業推進部で背中合わせの席になり、激励の言葉をいただいていた。

中山 資料づくりなど業務に追われ鍛えられている姿を目にして、陰ながら応援していました。手伝えることはできませんでしたが、体だけは気を付けるようにと。

椎根 やさしい激励は、心の支えになっていましたよ。

中山 私はその同期の結婚式でも、福島時代の椎根さんにお会いしているんです。それから30年以上のお付き合いですよ。

椎根 長きにわたり様々なシーンで支えていただき感謝しています。

——5年前の7月、中山さんが大阪支店長時代に入院することになった当時のこと、そして健康管理の重要性へと続きます

中山 大阪支店ではご迷惑をおかけしました。

椎根 あの時はどうなることかと思ひ、まずは早期の回復を祈りました。そして、会社と健保組合、支店の皆さんが一体となって、可能な限り中山さんご本人の回復とご家族の支援を優先に考え、対応に努めたことを鮮明に覚えています。その時、健保組合の皆さんとの連携の重要性をあらためて認識しました。その健康保険組合に中山さんが理事長として社員とご家族の健康増進に邁進されていることは本当に感慨深いです。

中山 今でこそ、健康に気を遣う時代になりましたが、突然病気がかかったりすることはまだまだ多いので、定期的な健診や人間ドックの受診はとても重要です。一方で課題は多く、社員が6割、家族が4割という健保組合の比率の中で社員は95%健診を受けていますが、ご家族の受診率はまだそこまで進んでいない状況です。

ホームページについてのアンケート結果を考察して

中山 去年の12月に、ホームページに対するアンケートを、年2回発行している『健保だより』を通じて行ったところ、「人間ドックに行く」「インフルエンザのワクチンを接種する」「出産する」などなんらかの機会がないとアクセスしていないという結果が出ました。それ以外の情報発信をこれからどうやっていこうかと検討している中、今回の椎根さんとの対談も、ホームページを見てもらうきっかけになるような情報交換ができればと考えました。

椎根 実は、今日この対談の直前に健診に立ち寄ってきました。「体重が減っていて何かおかしいな」と思ったからです。人事の業務を通して自覚症状や個々の健康状態に合わせて日頃から予防に努めると共に早めの受診が早期の回復に繋がるケースを多く見て、健康管理は速やかな対応を意識することがとても重要だと考えるようになりました。今日もその考えを基本に仕事の仲間たちにも協力を得て行動しました。

健康管理の重要性を組織全体で理解するために

椎根 お陰さまで今年7月に当社は創業105周年を迎えることができました。お客様、先輩社員の皆さまはじめ、支えてくださっている様々なステークホルダーの皆さまに感謝の気持ちでいっぱいです。私たちの社会的使命は「健全な資本市場の発展を、豊かな人生・社会の実現につなげる」ことと位置づけしており、お客さまをはじめとする皆さまから信頼され、頼りにされるよう、役員一体となってお客さまの様々な課題を解決し、豊かで明るい未来につなげるよう努めている日々です。明るい未来につなげるには、社員の皆さんが心身ともに健康でいきいき働くことが重要であると考え、会社と健保組合が一体となって、「健康経営宣言」を制定し、健康経営を推進しています。私たちを取り巻く環境は大きく激しく変化しており、様々なストレスが増している状況です。そのためにも会社と健保組合と社員の皆さんと一緒に健康保持の重要性を再認識する必要があります。上司が体調のすぐれない部下を気遣ったり、健康診断を受診しやすい文化や風土を作ったりすることなど徐々にできてきていると思いますし、ご自身とご家族の健康が仕事や自己実現の土台であることは、かなり浸透してきていると思います。ただ、残念ながら中には、健康管理の優先順位が後回しになってしまい、自覚症状があるにも関わらず、症状が悪くなるまで受診されないケースもあります。そうなる前に、中山さんがおっしゃるように、定期的に健診を受けたり、かかりつけ医や当社の産業医に定期的に健康状態をチェックしてもらったりすることが大切ですね。また、健保組合には電話相談窓口として「心と体の健康相談」等がありますが、そのような相談窓口があることを認識していない、あるいは知っているでも電話しづらいというケースもあるかと思います。会社からも相談窓口を利用させていただきよう、わかりやすく更に工夫して発信していく必要があると考えています。

中山 電話相談は、自身はもちろん親やお子さんのこと、病気になった時のセカンドオピニオンなどの相談にも乗ってくれます。

組合でも昨年、一昨年と連絡先を名刺サイズにして全社員および被扶養者の方に配布しましたが、まだまだ利用件数が多いとは言えない状態です。せっかく良い相談窓口があるので、不調を感じたり、心配事があれば積極的に利用してほしいと思っています。

椎根 今年度、SMBC日興証券では「多様なプロフェッショナルな社員が挑戦し続け、働きがいを感じる職場とチームの実現」を目指すための旗印として「人財ポリシー+1」を制定しました。これは、会社と社員が「選び、選ばれる関係」になるために、相互にコミットメントを明確化することを表現しています。社員の皆さんに提供する価値として、「自分らしさの表現」・「お客さま・社会への貢献」・「キャリア形成と自身の成長」・「継続的な人財投資」を掲げ、このポリシーに沿って人事施策を実践しているところです。その中で第一に掲げているのが「自分らしさの表現：本人と家族の心身の健康と幸せの尊重」です。あらためてですが、SMBC日興証券にとって、全ての社員が大切な財産です。社員一人ひとりが心身ともに健康でいきいきと働くことが重要であると考えています。私たち会社もしっかり努めていきますので、引き続き、中山さんはじめ健保組合の皆さんのご協力よろしくお願いたします。

他と比較しても優れる当健保組合の手厚い制度

中山 健保組合の組織というのは特殊ですが、社員の皆さんに安心して働いていただく環境をサポートする組織だと考えています。社員のご家族がご病気になられたときに、費用の面ひとつ例にとっても、当健保組合では他の組合等に比べて給付面で手厚い保障が受けられる制度になっています。入院中に手術を受ける場合に数十万円から数百万円の費用がかかったとしても、当健保組合では、付加給付制度により月額最高2万円までの自己負担で済むようにしており、他の企業に比べて手厚い制度になっています。ご家族のかわりはできませんが、こうした費用の面での心配が大幅に軽減されていることは、ひとつの大きな安心材料です。これは、エンゲージメントの向上につながるはずで、当社に勤めることは、健康も含めて安心して働ける企業なのだということを発信できます。仕事をすううえで、ストレスはつきものですが、定期健診などを利用し、いち早く病気のリスクを発見したとしても治療、療養する際は、この会社の制度が受けられて良かったといってもらえるはずで。私は30数年この会社にいますが、入院するまで全然知りませんでした。病気をして、その後健保組合の仕事をするようになって初めて、これほど給付の部分で優れていて、もし病気になっても療養費の面で心配する必要がないことや、相談窓口があることを知ったのです。おそらく、ほとんどの人は知らないはずで、ホームページやいろいろな会報で紹介していく必要があります。椎根さんはじめ人事のほうからも発信していただけることを期待しています。

椎根 はい、承知いたしました。会社も健保組合の皆さんといっしょに力を合わせて工夫し、よりわかりやすく健康相談窓口をはじめ健康保持・増進施策の情報発信の向上を図っていきたく思います。どうぞよろしくお願いたします。